

こんにちは。
町長です。



「消滅可能性都市」、「限界集落」とは？

令和2年となり早1カ月が過ぎました。今年は暖冬でその影響で尾ノ内百景氷柱事業も氷柱が出来ず苦戦しています。このような異常気象では、今年も台風などの自然災害の発生が憂慮されるどころです。ぜひとも平穏な1年であってほしいと思

います。

さて、「消滅可能性都市」という言葉を覚えている方も多いと思いますが、この言葉は増田寛也氏(元岩手県知事、元総務大臣)を中心とするグループが2014年に発表した概念です。この消滅可能性都市とは、2010年から2040年までの間に「20歳から39歳の若年女性人口」が5割以下に減少する市区町村で全国で896自治体、全体の約5割となり、このままいくと急激な人口減少に遭遇するとされました。この小鹿野町も若年女性人口変化率が63.6%の減少、2040年総人口が7,483人と推計されました。

また、「限界集落」とは、65歳以上の人口が住民の5割以上の集落で、共同体としての生活が維持できなくなりつつある集落とされています。

この2つの概念は人口推計等に着目し定義されたものです。

ところで、去る1月12日に開催した町の成人式の対象者は126人でした。

令和元年度の町の出生者推計は34人です。このままでは増田氏の推計を超える若年女性の減少率、総人口減が予想されます。

増田氏は、人口減少という日本の近未来の危機をいかに防ぐか、解答の選択肢も限られているが、根拠なき「楽観論」で対応するのは危険だが、だからといって「もはや打つ手が無い」というような「悲観論」に立つても益にならないのであると述べています。

まさにそのとおりだと思います。現在、人口減少、それに伴う高齢化率の上昇の高波はこの町を襲っています。この現実を受け止めながらその対応策を講じていくことが喫緊の課題であります。この課題はこの町だけの問題ではなく全国的なものです。もちろんこの町だけですべてが解決できるようなものではないことは分かっていますが、国の政策だけに期待するのではなく町の英知を結集し、小さなことでもいいから良いと思われることを実行してみる、チャレンジしていく必要があると思います。

この町は歴史も古く豊かな自然や伝統文化にも恵まれ、そして自治力も大変高い町であります。また、首都圏にも含まれており近くに巨大なマーケットもあり、地震などの災害にも強い地域であります。これらの町の地域特性を活用して町民と一体となり、人口減少に負けない多様性に富んだ町を作り上げたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎